



2006年8月25日

各位

2006年10月期第3四半期の概況について

株式会社 トップカルチャー
(コード7640 東証1部)

代表者名 代表取締役社長 清水 秀雄
問合せ先 執行役員総務部長 保科 正人
TEL 025-232-0008

<http://www.topculture.co.jp>

【2006年10月期第3四半期 連結業績(2005年11月1日~2006年7月31日)】

経常利益 前年比 175.0%と大幅に伸長

- ・ 売上・利益ともに順調に推移
- ・ 関東地区の店舗成長が売上を牽引
- ・ 売上総利益率の向上が利益増加に寄与

売上高	20,084 百万円 (前年比 117.0%)
経常利益	744 百万円 (前年比 175.0%)
四半期純利益	449 百万円 (前年比 200.8%)

当第3四半期は、関東地区の店舗のうち、開店後1~2年を経過した大型店の成長により、売上は順調に伸長しました。また、利益面では、粗利率の高いレンタルの売上伸長により売上総利益率が向上した結果、経常利益が前年同期に比べ大幅に増加しました。

当第3四半期は、埼玉県において大型オープンモール(敷地面積2万5,770坪)へ730坪の大型店を出店し、連結店舗数は前年同期比7店舗増の59店(うち関東地区16店)となりました。当社グループは、関東地区において500坪超の大型店舗を中心に出店を進めており、今後、同地区における出店の増加に加え、これら大型店の成長が業績に寄与するものと見込んでおります。

また、既存店が堅調に推移したことが、業績を下支えしました。販売用CD・DVDはタイトルパワーの増減に左右される傾向が続きましたが、商品提案を強化した書籍やレンタルDVD・CDがそれぞれ前年を大きく上回って好調に推移しました。その結果、既存店の売上高前年同期比は100.1%となりました。

今後の見通しにつきましては、関東地区において、大規模商業集積施設への大型店の出店を中心に、店舗買取の実施など、投資回収期間の短縮を図りながら、積極的に出店を行っていく計画です。また、売上高総利益率の向上に向けた取組みを強化してまいります。

当連結会計年度の通期の業績予想につきましては、従来公表に変更はございません。

TOP CULTURE Co.,Ltd.

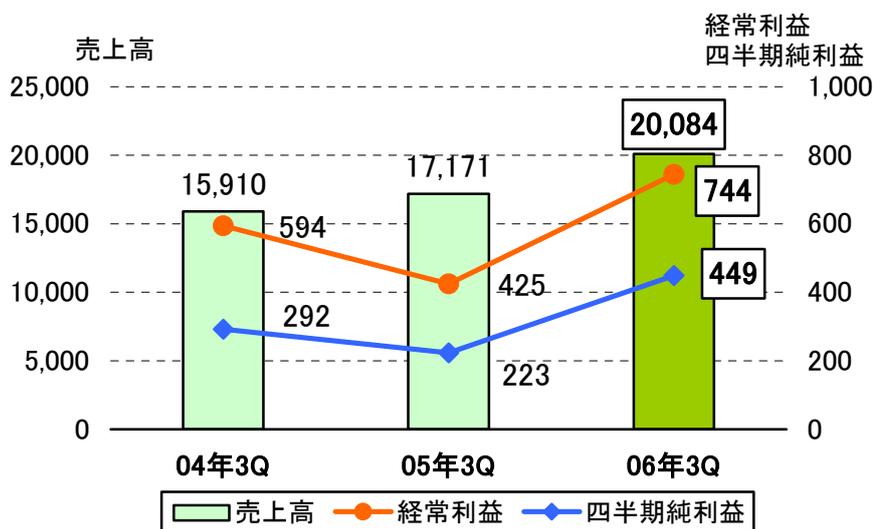
1. 連結業績の概要

- ・ 売上・利益ともに順調に推移しました。
- ・ 関東地区における大型店の成長と新店の順調な立ち上がり、売上伸長に寄与しました。
- ・ 既存店の品揃え拡充と改装を順次進めており、業績伸長の基盤となりました。
- ・ 粗利率の高いレンタル DVD・CD の好調が、利益率の向上の要因となりました。

【連結サマリー】

(百万円)

	05年10月期 第3四半期		06年10月期 第3四半期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	17,171	100.0	20,084	100.0	117.0
売上総利益	4,949	28.8	5,940	29.6	120.0
営業利益	379	2.2	615	3.1	162.1
経常利益	425	2.4	744	3.7	175.0
四半期純利益	223	1.3	449	2.2	200.8
EPS(円)	21.16		36.09		170.6



【単体サマリー】

(百万円)

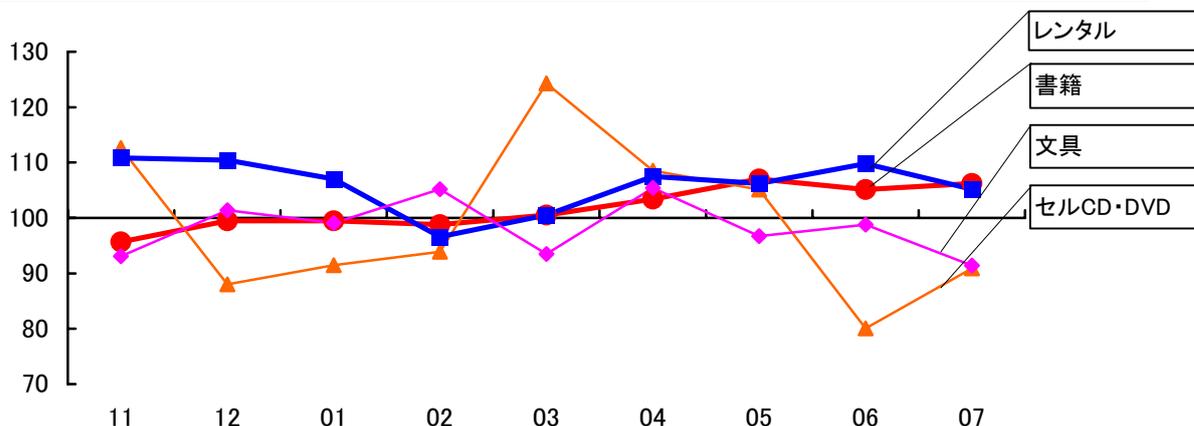
	05年10月期 第3四半期		06年10月期 第3四半期		前年比 (%)
	金額	構成	金額	構成	
売上高	16,708	100.0	19,487	100.0	116.6
売上総利益	4,842	29.0	5,813	29.8	120.1
営業利益	372	2.2	644	3.3	173.0
経常利益	418	2.5	773	4.0	184.9
四半期純利益	220	1.3	468	2.4	212.7
EPS(円)	20.82		37.62		180.7

2. 商品別売上高の推移

(蔦屋書店部門)

- ・ レンタル、書籍が好調に推移しました。
- ・ 販売用(セル)CD・DVD は、タイトルパワーの増減が大きく影響しました。
- ・ 利益確保を重視した商品構成へシフトするため、各商品の品揃え見直しを進めています。

	05年		06年							累計
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
全店	115.3	112.4	115.5	114.0	123.1	121.4	117.4	112.7	115.8	116.6
既存店	99.5	95.5	97.6	96.6	104.5	107.1	103.7	97.9	98.8	100.1



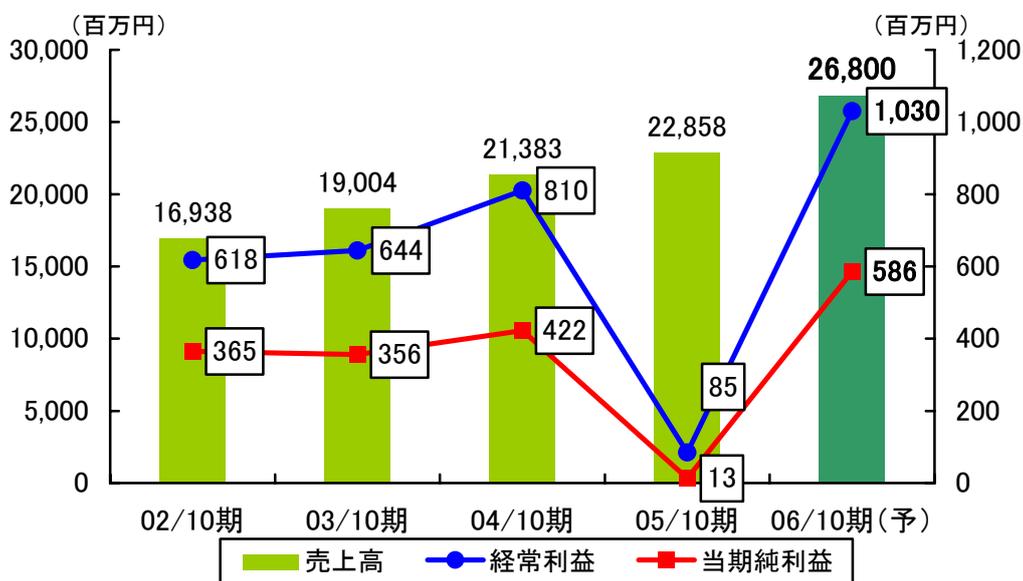
3. 出店状況

- ・ 滑川店を大型オープンモール(敷地面積 2万 5770坪)へ出店しました。スーパーセンターのベシア(約 2,550坪)、カインズ(約 2,400坪)に隣接しています。

	時期	地域	延床面積	店舗数
新規出店	1Q (05/12/10)	・ 蔦屋書店横越バイパス店(新潟県)	620坪	2店
		・ 古本市場トップブックス横越バイパス店(新潟県)	150坪	
	3Q (06/06/24)	・ 蔦屋書店滑川店(埼玉県)	730坪	1店
店舗統合	2Q (06/04/30)	・ 蔦屋書店白山駅前店(新潟県)	△160坪	△1店
増床	2Q (06/03/2)	・ 古本市場トップブックス竹尾インター店(新潟県)	+160坪 (270坪)	
	2Q (06/03/25)	・ 蔦屋書店佐渡佐和田店(新潟県)	+360坪 (720坪)	
増加数			1,860坪	2店

4. 2006年10月期の業績予想

- ・ 売上・利益ともに大幅な伸長を見込んでおります。
- ・ 今後も引き続き、関東地区において、大規模商業集積を中心とした大型店の出店のほか、店舗買取の実施など、投資回収期間の短縮を図りながら、積極的に出店を行っていく計画です。また、売上高総利益率の向上に向けた取組みを強化してまいります。



【株式会社トップカルチャー 会社概要】

- ・ 資本金: 20 億 737 万円 ・ 従業員数 266 名 (他パート・アルバイト 460 名)
- ・ 事業内容: 書籍・CD・DVD・文具等の販売、CD・DVD のレンタル業務を行う大型複合店舗の運営を通じた「日常的エンターテイメント」の提供
- ・ 連結子会社: 株式会社トップブックス (中古書籍・CD・ゲーム等の売買、店舗名「古本市場トップブックス」)

【この資料に関するお問い合わせ先】

株式会社トップカルチャー

執行役員総務部長 保科正人

TEL: 025(232)0008 FAX: 025(265)1260 <http://www.topculture.co.jp>

※本資料は、現時点で得られた情報に基づいて算出しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。